魔王のいろは

東波　広

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔王のいろは

【Ｎコード】
Ｎ８７４３Ｙ

【作者名】
東波　広

【あらすじ】
魔王！魔王！魔王！！

プロローグ

魔王とは、噛み砕いて説明すれば悪いやつ。この一点に集約されているだろう。

本人がどんなことを考えていたとしても、周囲の目から見て悪いと認定されればそれは悪いやつとなる。

これは、その悪いやつの代表格。魔王と呼ばれる者になった勇者候補の、魔王人生を綴る物語である。

ことの起こりは遥か昔、世界から見れば極短い期間の一部。とある王国の召喚の間では無い場所であった。

だが、そこに至るまでの経緯を少し話さなければならないだろう。

早朝、夜が明けるより少し早い時間。むくりと布団が膨らみ、中から目をこすりながら辺りを見回す少年が居た。

彼の名前は一条（いちじょう）　勇（ゆう）、今年の誕生日を既に迎えた１７歳の高校生である。

高校は冬休みへと突入し、今日は俗に言う大掃除。つまるところ１２月３１日の朝である。

勇は冬休みは思い切り満喫するタイプである。普段ならば寝ている時間に起きた理由はだからこそといえるだろう。

１２月３１日とは初詣の前日。友人とはしゃいで年を越し、そのまま初詣へと向かう予定だったのだ。

つまり、遅くに起きれば大掃除の時間が取れないということでもある。

一条の家訓では「大掃除をしないものにはお年玉なし」という厳しいルールがあるために、仕方なく早めに寝たのである。

彼の家はそれなりに裕福であり、街の中でもかなり行為に位置するであろう。もっとも、両親の実家から見れば貧乏に見えるが。

そんな両親を持つ勇のお年玉は、同学年の数倍の金額となる。お年玉さえあれば新作のテレビゲーム機本体を１０台ほど買えるほどだ。

一度お年玉を全て没収されて痛い目を見たことのある勇は気合を入れて掃除する。この日のために１０月から整理整頓を続けてきたためやることは少ないが、それでも数時間はかかるだろう。

部屋の窓を開けてベランダから外を見る。ちらほらとランニングをしている老人やサラリーマンが視界に入る。

「う～、さむさむさむ」

クローゼットの中からロングコートを出してはおる。探偵モノにロングコートがつきものなのはなぜだろうか。

「すぐにおわらせよう、そうしよう」

ベッドのシーツを外して、マットレスもはずして階段を下りていく。降りてすぐの玄関前に放置して庭に出る。

庭の倉庫からバケツを出して水を入れる。こぼさないように階段を上ってドアの前においておく。

部屋に入り、はたきがけを始める。ぱたぱたと小気味いい音が部屋の中に響いている。

しばらく経って、一通り終わらせた勇はバケツに水を入れてきて部屋の中に置いた。先日スーパーで買ったばかりの白い雑巾を４枚テーブルの上に置く。余談だが、雑巾は一度洗濯済みなので吸水量がいい。

まずは１枚目を濡らして絞り、物をどかしながら棚や机やベッドを拭く。その後で２枚目を取って乾拭きをする。

３枚目も濡らして絞り、床を拭いては４枚目で乾拭きをする。小学校の頃の床掃除を思い出して苦笑する。

１枚目と２枚目の雑巾で窓のサッシを拭いて、その雑巾を捨てる。３枚目と４枚目は既に袋の中だ。

バケツを再度こぼさないように外に持っていって水を捨てる。空

になったバケツを倉庫に放りこんで一休み。

「疲れた・・・」

空を見ると既に日が昇っている。朝ごはんを食べにダイニングルームへと歩いていく。

「おはよー、ご飯ちょーだい」

「おはよう、勇。徹(とおる)さんにこれ渡してきて」

起きて朝食を作っていた母親に渡されたものをもってテーブルに着く。

「おはよ、父さん」

「おう、おはよう」

新聞を読んでいた父親の前にキュウリの漬物と箸を置いて反対側に座る。ロングコートは椅子にかけた。

テレビから流れてくる朝のニュースを聞きながらいつも通りの朝が始まった。

「（平和、だな～）」

しばらくそんなことを考えながら鼻歌を歌ってみる。

両親の仲はかなり良い。父親は会社の重役、母親は主婦のリーダー的な存在で、自慢の両親だ。

父親も母親も旧家の次男・次女で、珍しく恋愛結婚を果たしたそうだ。

ゆっくりとコーヒーを飲む父親は、渋いイケメンだ。母親によると「ライバルが多くて苦戦したのよ」と言うほどもてる。なぜその渋さが遺伝しなかったのか、非常に悔やまれる。

母親は良く言えば愛らしい、悪く言えば子供っぽい性格をしている。茶目っ気が多く、父親を振り回すことが多々ある。父親は「そこが魅力なんだ」と、食事中に力説して母親を真っ赤にさせてたのはいい思い出だ。

勇は母親似の外見で、栗色の髪と黒色の瞳を持った肌白い男子である。両親共に黒髪なのになぜだろうかと思春期に思い悩んだこともあったが、いまは年齢の経過と共に黒くなるだろうと希望を抱いている。

カッコいいというよりは可愛い系の顔に、男子にしては小さな体。髪も生えてこないのは今も悩みの種である。

「ご飯できたわよ」

耳元で囁かれた声にビクッと体が跳ねる。考え事をすると目に景色が映らなくなるのは悪い癖である。

「うわ！・・・びっくりした」

父親もこちらを見て心配そうにしている。大丈夫だと言ってトーストやハムエッグなどの朝食を見る。

「いただきます」

手を合わせて食事を始める。おいしいと言うと母親は嬉しそうな顔をしながら料理の説明を始めるのだ。父親と共に嫌な顔一つせずに話を聞く。

これが、一条家の普段の食卓の様子だった。

食事を終えて部屋に戻る。開けっ放しだった窓を閉めてコタツをつける。ロングコートはベッドに放り投げておく。

オーン・・・。低い音と共にコタツの中が光る。部屋の中を見渡すと勉強机・ベッド・棚・クローゼット・テレビ・パソコンが見える。

「（我ながら、あれだよな。趣味のものが一切無いというか・・・）」

趣味といえるか怪しいが、魔法と呼ばれる類のものが好きだ。怪しい魔術道具や怪しい薬の製造レシピなどなど、パソコンで見ながら心を躍らせている。

なぜそういうものを集めないのかときかれれば彼はこう答えるだ

ろう。「部屋の邪魔になるから」と。

時たま友人達が遊びに来る部屋にそういうものを置いても邪魔なだけだし、この景観を損ねるのは気が引ける。

「ふいー」

ようやく温まってきたコタツの中で息を吐く。下から持ってきたみかんを剥きながら今日の予定を声に出しながら確認する。

「えっと、今日の予定はー。大掃除だろ、遊ぶだろ、誰かの家に行って、初詣っと」

その完璧なまでのスケジュールにむふーと鼻息を荒くしながら自画自賛する。

「とりあえず、今何時だろ」

コタツの上においてある携帯を開いて時間を確認する。

「9時42分か、そろそろ行くかな」

集合は10時半に駅前。友人達3人と勇を入れて「バカ騒ぎ4人組」と学校では恐れられている。

歩いて10分ほどで学校、20分ほどで駅に着く距離にこの一軒家は立っている。

理由はいくつかあるが、大きな理由はこの場所が神域だから守護をしろと父方の実家に言われているかららしい。残りの理由は病院

が近い・父親の会社が歩いて1分程度・４つとなりに商店街があるなどの理由からである。

顔洗いはバケツの水汲みの時に済ませたため、歯を磨いてからシャワーを浴びる。

長袖の黒い無地のトレーナーに下は黒いスラックス、黒いロングコートを羽織って完成だ。全身黒尽くめだけど怪しくない、はずだ。

「これにサングラスかけたら怪しいやつだな」

黒い影が街の中を横切る。勇は羽織るものは黒のロングコートしか持っていないし、ズボンも黒のスラックスしか持っていない。上着も黒系が多いためにいつも全身黒い、街の中では「クロ（さん・ちゃん）」の愛称で慕われている。

「クロ、今日はどこ行くんだ？」「クロちゃん、いっておいで」「クロ坊はいつも元気だな」など道すがらに挨拶される。

律儀にすべてに返事をして軽く駆け足で走る。スキップのようになっているのはご愛嬌だ。

５分ほど行くと、途中の交差点で信号につかまり信号を待つ。

交通はまばらで、少し田舎っぽいなといつも思う。これでも学校を超えれば都会の光景が広がっているが・・・。

「ん～、んっん～♪」

鼻歌を歌いながら今か今かと待っている。

ガッッ！ゴシャ！

変な音に振り向いて、視界が暗く染まる。

間際に見えたのはおそらく歩道のガードレールを突き破ってきたのであろう暴走トラックの前面だけだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8743y/

魔王のいろは

2011年12月10日01時54分発行